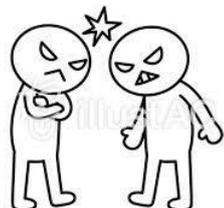


そよ風

第7号

今治市立立花中学校



対立と合意



先月は、気持ちの良い秋晴れの下、予定通り運動会が行われました。全員が一生懸命活動する姿に、暑さも忘れ、清々しさを感じた1日でした。しかし、それまでの過程においては、言い争いや喧嘩もあったことでしょう。泣いたり、すねたり、怒ったり…私たちの日常生活にはいつも対立がつきものです。時には友人間、時には家族間でも。「休みの日に、何の映画を観る?」「夕飯のメニューを何にする?」そんな些細なことでも意見の食い違いが生じます。そんな時、みなさんはどうしていますか?

対立した(意見が食い違った)ままでは、相手に対して悪い感情が沸き上がるばかりで、一步も前に進みません。何を観るか決まらないまま、休日は過ぎていくし、夕飯を食べそこなって、お腹がすきます。だから、私たちは互いに譲れるところは譲りながら、互いが納得できる着地点を見つけていくのです。(合意形成)

ところが現在、国際社会を見渡してみると、対立の構図が溢れています。日韓関係をはじめ、米中の対立、米とイランの対立、香港のデモなど、今のところ合意形成を目指す気配は見られません。関係が悪化していくと、経済制裁だけでなく戦争にもつながりかねません。

真ん中にあるものは…?

先日、^{ニュース} ^{ゼロ} news zeroに今をときめくヒットメーカーの米津玄師が出演していました。事前に録画されたインタビュー映像でしたが、その中でこんなことを語っていました。

「自分が思っていることと全く真逆のことを考えている人間が対岸にいた時に、その**対岸にいる人の主義主張みたいなものを一回引き受けてみる**。それくらいの余裕は絶対もって生きたい。……ひたすら中間というか、**真ん中には何があるのかと探し当てる**。自分にとって音楽をつくる上でも、日々生きていく上でも一番大事なことかな。」

これぞ、対立を合意に導く極意だと思います。

今年4月からは外国人労働者の受け入れ拡大が始まりました。生活習慣や宗教の違いなど、国内にも対立の種が増えていくことが予測されます。だからこそ、真ん中にあるものを見つけながら生きていくことが大切ではないでしょうか。そして、そんな生き方の先に、人類が目指す素晴らしい世界が待っているような気がします。

